

まちづくり新聞

神納東地域

第30号

つながり、支え合い、心やさしく暮らせる神納東 ～笑顔があふれる集落・地域をめざして～

8/2

「山元遺跡」現地説明会を開催

地域の方など19名が参加しました。

志田平集落区長 内山 秋善



山元遺跡から見た日本海東北自動車道



下助刈集落開発センターで資料を見ながら説明



村上市生涯学習課職員による現地説明

私が初めて山元遺跡の名を耳にしたのは、平成22年頃ではな
いかと思います。当時、日東道
建設工事の中、調査発掘してい
ると聞きました。ご存じのと
おり「山元遺跡」は、下助刈集
落の山元地内、日本海東北道の
山元トンネル真上に位置する
「高地性環濠集落」です。時代
は弥生時代中期～後期の日本海
側最北の高地性環濠集落です。
遺跡は居住域と墓域からなり、
前者から竪穴建物1棟、土坑1
基、環濠7条など、後者から土
坑墓11基、埋設土器3基などが
確認されました。鮮やかな水色
のガラス珠も発見されました。
土器は東北系と北陸系と続縄文
式が出土しています。特に、東
北系と続縄文系が混在すること
高地性環濠が県北に存在したこ
とは、誠に希少性に富むもので
あり、遺跡界では大変貴重な遺
跡と聞きました。遺跡は平成28
年に村上市で3例目の国史跡に
指定されています。

また、この地域は江戸時代に
干拓が開始されるまでは、岩船
潟と呼ばれる潟でした。

弥生中期では、潟も大きく遺
跡のすぐ下まで汽水域であった
と思われる。トンネルの真上
から見ると、弥生人が岩船潟を
見ながら船による東北と西日本
の文化交流をしていたと思うと、
ロマンが広がる思いがします。
しかし、地元では同遺跡の認
知度はどうでしょうか。

遺跡があることは知っている
が詳しいことは知らないという
人が大多数ではありませんか。

今後は、同遺跡の保存を大前
提に広報活動を活性化して、貴
重な地域資源である遺跡を生か
して神納東地域の活性化に結び
つけることが重要です。旧神納
東小学校跡地利用の中で、展示
スペース整備に必要な予算措置
を求めるなど積極的な活動が求
められます。

まずは、各集落単位あるいは
地区単位での「山元遺跡を学ぶ
会」の開催を手始めに活動を開
始したいものと思います。

ご賛同いただける皆様から
ご支援を得ながら「山元遺跡保
存会」（仮称）を設立するなどして
神納東地域の活性化の一助とし
たいものです。

